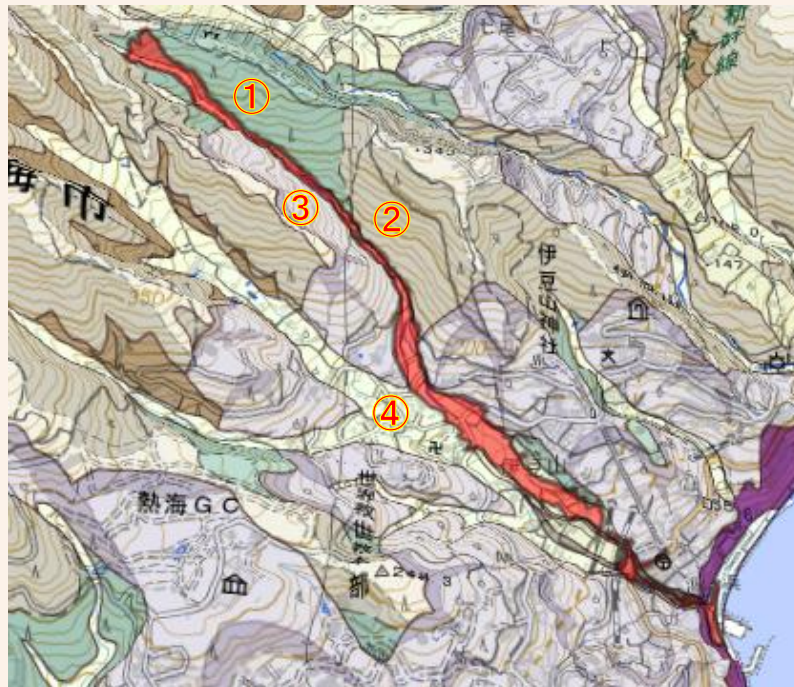
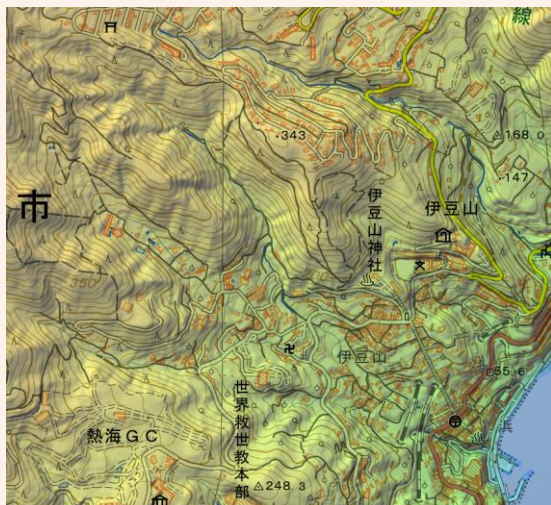


令和3年（2021年）熱海市伊豆山土石流災害



災害の概要

令和3（2021）年7月に、梅雨前線に向かって暖かく湿った空気が次々と流れ込み、東海地方から関東地方南部を中心に記録的な大雨となりました。熱海市の伊豆山地区では、逢初川の源頭部で発生した崩壊が土石流となって海まで流下し、多くの家屋が被害に遭いました。



崩壊地等の凡例

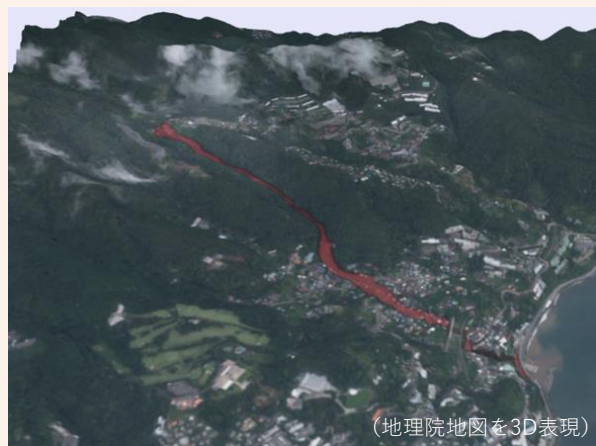
地山・土砂が見えて
いる範囲

火山土地条件図「箱根山」の一部に崩壊地等を重ねた図（地理院地図を3D表現）

災害発生地の地形条件

この地域は開析された火山斜面で、全体に急傾斜です。上図によると、がけ崩れ・地すべりが発生しやすい斜面（①②③）と、土石流の土砂がくり返し堆積したきた谷間の斜面（④）から成り立っていることがわかります。

土砂災害は何か
きっかけとなって
起こったのかな。



地理院地図で見る災害発生箇所

伊豆地方北部・箱根周辺等の土砂災害

この地域では、新しい火山性堆積物からなる斜面が多く、土砂災害が発生しやすいと言えます。特に伊豆地方北部では、狩野川台風（1958年9月）で多数の土砂災害が発生しています。また、箱根火山では、大規模な土砂災害が何度か発生しています。箱根周辺では、大正12（1923）年9月の大正関東地震（関東大震災）や昭和5（1930）年11月の北伊豆地震に伴う土砂災害も発生しています。

同様に北海道の胆振地方においても、恵庭岳や樽前山といった活火山による火山性堆積物が地震によって崩壊し土砂災害が発生しています。



(地理院地図)



(地理院地図)



地理院地図で見る自然災害伝承碑（土砂災害）の分布